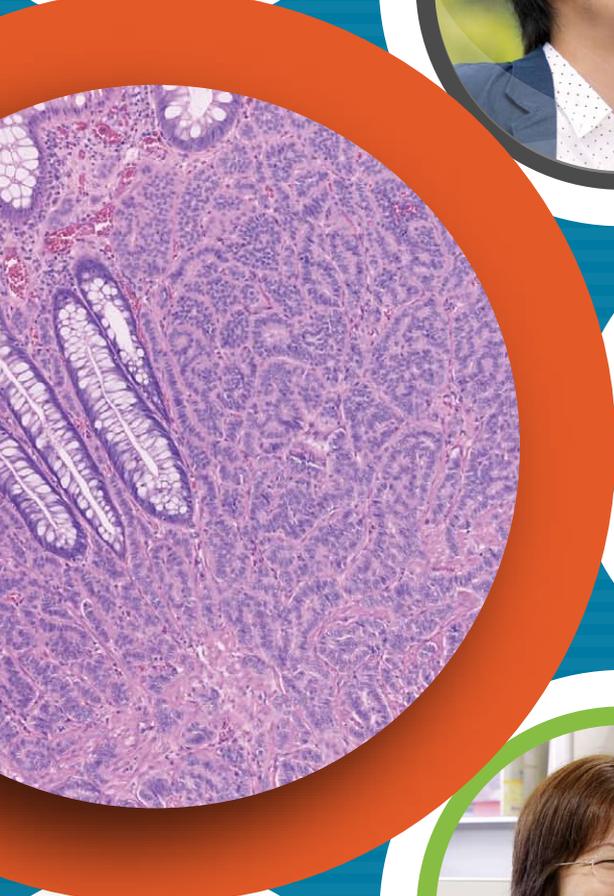


病理



目指せ
病理医!

抜粋版

Doctor of Doctors



一般社団法人 日本病理学会
The Japanese Society of Pathology

様々な疾患の確定診断 正確な医療を導く

病理医は、すべての臓器、すべての患者を対象とした幅広い分野の診断を担当します。

“Doctor of Doctors”とも呼ばれ、患者さんには直接会いませんが、臨床医からの診断依頼に応え、顕微鏡的観察を中心に用い、「疾患の確定診断」を行います。

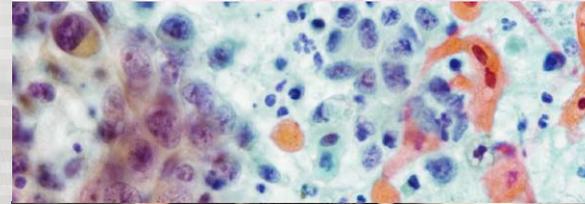


Doctor of doctors

細胞診で低侵襲診断

細胞診は組織が採取できない部位からも容易に診断可能で時間もかかりません。

病理医にとって右手が組織診、左手が細胞診というほど重要で、両者を駆使しながら診断しています。最近では細胞材料の免疫染色や遺伝子診断により治療薬の選択も行われており、診断だけではなく治療上も重要性が高まっています。



Cytological Diagnosis



病理解剖で疾患の全貌 を明らかに

病理医の重要な仕事に「病理解剖」があります。不幸にして亡くなった患者さんの病態を明らかにし、治療の妥当性などを検証します。

病理解剖は全身をくまなく調べ、深く、広く疾患を検索します。

Autopsy

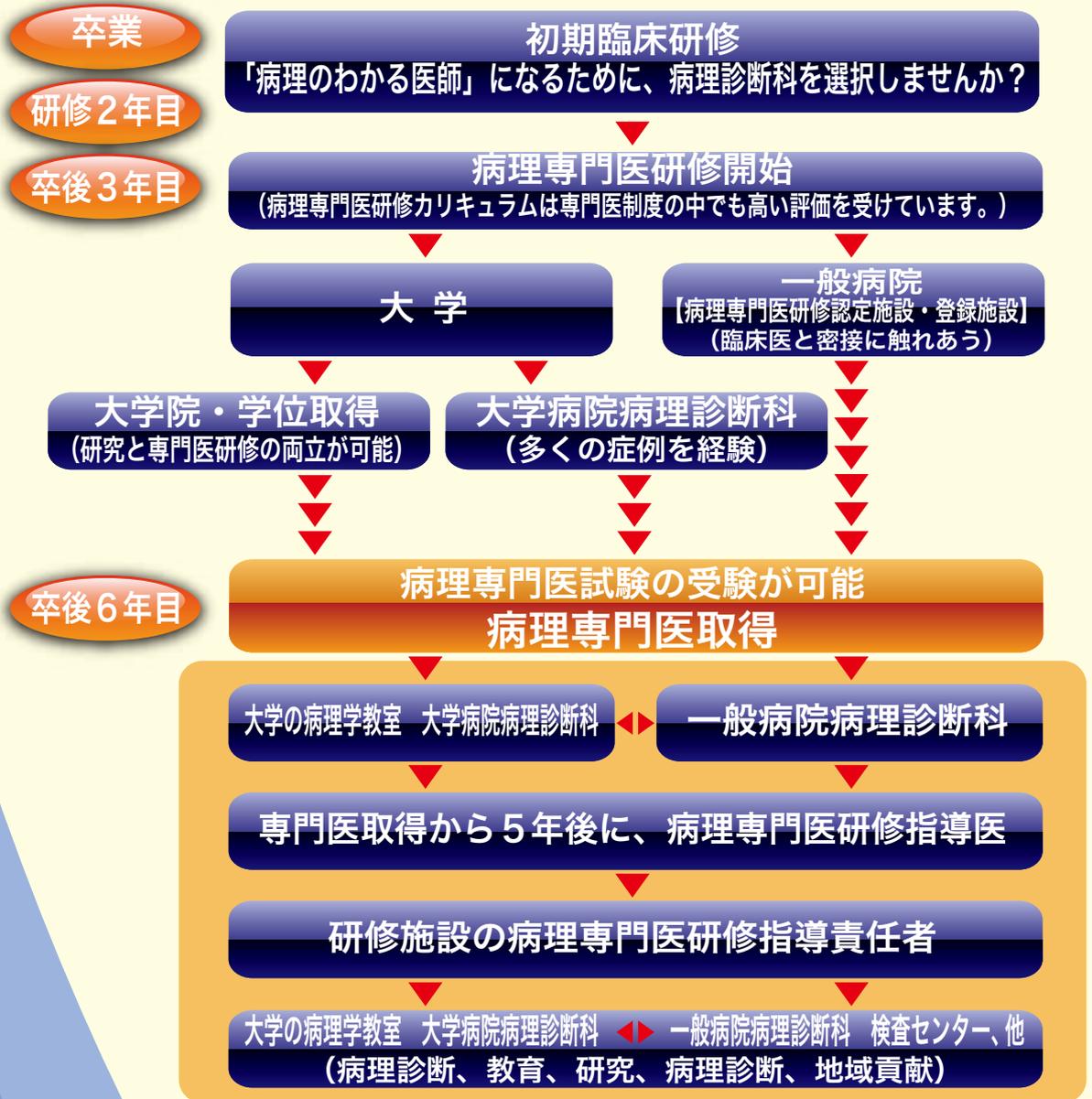


新たな病因・分子標的 をみつけ患者を救う

病理は全ての分野に関わり、横断的な疾患の理解をすることができます。病因や分子標的を発見し、臨床応用へと結びつける。これがtranslational researchです。

For the novel therapies

病理専門医への道



病理医のキャリアアップ

あなたの志望に合わせ、様々なキャリアアップの方法があります！

●診断病理医を目指す！

診断病理医になるには、大学の病理学講座、病院の病理診断科などに進み、研鑽を積んでゆくことになります。施設によって様々な特色があります。病理の受け持つ分野は広汎ですが、ゆっくりとマイペースで段階的に学んでゆくことが出来ます。やがて、自然と幅広い知識が身につけてきます。

5年の経験を積みば病理専門医試験を受けることができます。まずは最初の目標です！

その後、個々の希望に合わせ、subspecialtyを決めてさらに深く学んでも良いでしょう。病理の道は、広く、深く。あなたの希望に添った道を探していきましょう。

●ライフワークバランスも大事！

ライフワークバランスは大事です。長く続ける仕事になりますから、うまく趣味なども生かしてゆきましょう。病理がライフワークバランスの上で有利であることは言うまでもないでしょう。

子育て中の女性医師にとっても大変優しい職種ですよ。

●バリバリと研究をしたい！

病理は臨床と基礎医学の橋渡しをする分野です。バリバリと研究をしたい方には、病理の基礎医学に強い一面が生きてきます。全国の施設で活発に研究が行われていますよ。病理診断と研究の橋渡し、いわゆるtranslational pathologyをやってみませんか？ あなたの発見から新たな治療法や薬ができるかもしれませんよ？

病理らしく、研究の種類も様々。あなたにピッタリの研究分野が必ずみつかります。

●マイペースで仕事をしたい！

病理は色々なことに振り回されて大忙しという状況にはなりづらいところ。顕微鏡も自分のペースで心ゆくまで観察すればよいのです。

じっくりと疾患を観察し、知識を深め、マイペースで仕事をしやすいところです。



皆さんの疑問にお答えします

Q 他の診療科から病理への転向は可能ですか？

A 可能です。実際、病理医の中には他の臨床科から転向した病理医は沢山います。臨床の知識を背景に、専門性の高い病理医を目指すこともできます。

Q 医学生時代に病理実習が全くわからなかったのですが、病理医になれますか？

A 多くの病理医も「学生時代は組織像がまったくわからなかった」と言っています(笑)。でも本を調べたり他の先生に教えてもらったりしながら1枚1枚の標本をじっくり、たくさん見ているとわかるようになってきます。

Q 頭が良くないと病理医になれないと聞きました

A 私(筆者)の学生時代の成績はとても人には言えません。学生時代の勉強はもちろん重要ですが、知り合いの病理医にも「学生時代は出来が悪かった」という人はたくさんいます。今の成績が悪いからよい病理医になれないなんてことは決してありません。

Q 病理に進む場合、初期研修医の科の選択はどうしたら？

A 臨床の経験も病理医になるには重要です。思う存分色々な科を回るのも手です。もちろん病理を思いっきり選んでもかまいません。人それぞれですよ。

Q 給料が心配です

A 全国的に病理医数は極めて不足し、まさに売り手市場です。臨床医と比較して給料が低いということはありません。

Q 研究をしながら、家族を養うことはできますか？

A みなさん養っています(笑)。病理医は引っ張りだこです。研究しながらでも収入は得られますよ。

Q 病理で開業するのは可能でしょうか？

A 診療標榜科としての病理診断科が厚生労働省によって認められており可能です。都道府県によって制度がことなりますが開業にあたっては診療所ということでベッドや診察室が必要な場合もありますが、実際に病理診断科として開業している病理医がいます。

Q 当直はありますか？

A 施設によって異なりますが、病理解剖を休日や夜間も対応している施設では「待機当番」となることがあります。ただ、そのような場合でも病院にとどまっている必要はありません。

Q 病理医としてやりがいを感じる時はどんな時ですか？

A 的確な病理診断をして、患者さんの治療につながる時に、やりがいを感じます。また、病理診断によって患者さんの背景に隠れている全身疾患を推定し、ひいては病態の理解につながったときもやりがいを感じます。

Q 出産や育児に関してサポートはありますか。子育て、家庭との両立は可能ですか？

A 病理診断は患者さんの状態に左右されることが少ないことから、子育てや家庭との両立は比較的しやすい科と考えられます。病理解剖で夜間や休日に呼ばれることもありますが、最近は病理解剖も日中に行う病院が増えていきます。病理医の中に占める女性病理医の割合も増えており20~30代の病理医の半数近くは女性病理医が占めています。施設によっては、女性医師へのサポートシステムも備えているところがあります。

是非とも病理学会ホームページからフルバージョンをダウンロードしてください。